

景況感 過去最悪に

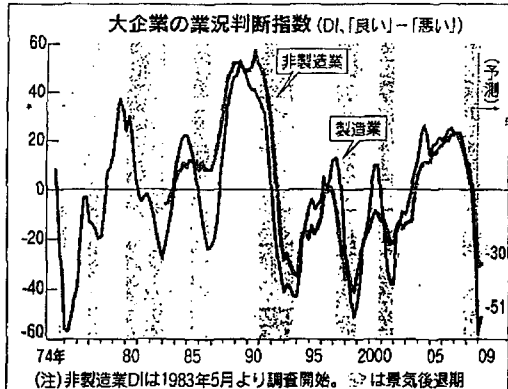
日銀3月短観

大企業製造業マイナス58

設備投資計画も減少

日銀が1日発表した三月の企業短期経済観測調査（短観）では、大企業製造業の景況感を示す景況判断指数（DI）がマイナス五八と、第一次石油危機後の一九七五年五月（マイナス五七）を下回り、七四年五月の統計開始以来、過去最悪になった。景況の急速な冷え込みを背景に、企業の二〇〇九年度の収益予想や設備投資計画も前年度比で減少した。ただ三月月の見通しについては約三年ぶりに景況感の改善を見込んでいる。（関連記事3面に）

3カ月先見通し 3年ぶり改善



景況判断指数の節目
(大企業製造業、▲はマイナス)

第一次石油危機後	1975年5月	▲57
前回の金融危機時	1998年12月	▲51
前回	2008年12月	▲24
今回	2009年3月	▲58

景況判断DIは景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた割合を引いた値。大企業製造業のDIは昨年十二月の前回調査（マイナス四）から三四ポイント下がり、悪化幅も過去最大

になった。三月月の見通しは今回と比べて七ポイント改善した。大企業製造業の業種別で見ると、十五業種すべてでDIがマイナスになった。世界経済の急減速はマイナス三二で、九九

を受け、輸出依存度が高い自動車やマイナスイロに落ち込んだほか、一般機械・電気機械も過去最悪水準に落ち込んだ。大企業非製造業のDIはマイナス三二で、九九

資金繰りなお厳しく

日銀短観で大企業製造業の景況判断DIが過去最悪水準に落ち込んだのは、世界的な金融危機が輸出主導の経済構造を直撃し、輸出に占める国内需要も落ち込みが深刻になっているため。設備や雇用の大幅な削減が急務に迫り、設備投資計画を大幅に削減するなど、企業行動が萎縮。大企業の資金繰りも大幅に悪化している。

昨年未以降、自動車産業を中心に在庫調整を急速に進めた結果、生産にはひとまず下げ止まりの兆しが見える。三月月後の先行きを示す景況判断DIのマイナス幅が縮小に転じたのはこのためだ。市場では「景況感最悪期を脱しつつある」との見方も浮上している。だが企業行動が萎縮したままでは、設備投資の削減や雇用の調整を通じて景況に下押し圧力がかかり続ける状況は変わらない。当面は政府・日銀による危機対応策が必要な局面が続くことが予想される。

製造業でマイナス五九と、前回調査から二五ポイント下がり、一九七六年二月以来の低水準。マイナスイロは大きいほど需要に比べて供給が多すぎることを示しており、それだけ国内

で製品や商品が売れなくなっている。企業はバブル経済の崩壊後、長い時間をかけて過剰雇用や過剰設備の解消を進めてきた。だが今回の短観は、需要の落ち込みが企業の想定を超えて進んだことで、設備や人員の過剰感が再び急速に高まっていることを裏

付けた。二〇〇九年度の収益や設備投資の計画は、新年度当初としては異例の弱さになった。企業行動の萎縮は实体经济を一段と下押ししかねない。企業金融の悪化も続いていて、企業の資金繰り悪化は九八年十二月以来の低水準だ。

九で、七八年二月以来の断DIは大企業製造業が過剰感強まっている。三五と、〇二年三月以来の高水準。前回からの上昇幅は二七ポイントで過去最大「を引いた雇員人員判

った。〇八年度の売上高も前年度比七・六％減と減収に転じる見込み。〇九年度の想定為替レートは一ドル九十七円一八銭。〇九年度の大企業製造業の設備投資計画は、前年度比一三・三％減と、三月調査としては過去最低に落ち込む見通し。〇八年度も前回調査から下方修正されて同二・四％減になり、六年ぶりに減少に転じた。設備が「過剰」との回答から「不足」を引いた設備判断DIは三

九で、七八年二月以来の断DIは大企業製造業が過剰感強まっている。三五と、〇二年三月以来の高水準。前回からの上昇幅は二七ポイントで過去最大「を引いた雇員人員判

った。〇八年度の売上高も前年度比七・六％減と減収に転じる見込み。〇九年度の想定為替レートは一ドル九十七円一八銭。〇九年度の大企業製造業の設備投資計画は、前年度比一三・三％減と、三月調査としては過去最低に落ち込む見通し。〇八年度も前回調査から下方修正されて同二・四％減になり、六年ぶりに減少に転じた。設備が「過剰」との回答から「不足」を引いた設備判断DIは三

九で、七八年二月以来の断DIは大企業製造業が過剰感強まっている。三五と、〇二年三月以来の高水準。前回からの上昇幅は二七ポイントで過去最大「を引いた雇員人員判

った。〇八年度の売上高も前年度比七・六％減と減収に転じる見込み。〇九年度の想定為替レートは一ドル九十七円一八銭。〇九年度の大企業製造業の設備投資計画は、前年度比一三・三％減と、三月調査としては過去最低に落ち込む見通し。〇八年度も前回調査から下方修正されて同二・四％減になり、六年ぶりに減少に転じた。設備が「過剰」との回答から「不足」を引いた設備判断DIは三

九で、七八年二月以来の断DIは大企業製造業が過剰感強まっている。三五と、〇二年三月以来の高水準。前回からの上昇幅は二七ポイントで過去最大「を引いた雇員人員判